

宮崎大学



▼ 熊本地震に係る支援活動の概要

1. DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣：熊本市・阿蘇市・益城町等へ、のべ44名を派遣（4/14～6/19）

派遣先	派遣期間	派遣人数
熊本赤十字病院等	4/14～16	5名（医師2名・看護師2名・業務調整員1名）
宮崎県庁DMAT調整本部	4/15～17	14名（医師2名・看護師5名・業務調整員7名）
宮崎大学医学部附属病院	4/16～17	8名（医師3名・看護師3名・業務調整員2名）
阿蘇熊本医療センター	4/20～23	5名（医師2名・看護師2名・業務調整員1名）
益城町総合体育館	4/23～27、5/6～9、6/19	12名（医師6名・看護師4名・臨床検査技師2名）

2. DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣

派遣先	派遣期間	派遣人数
熊本県DPAT調整本部	4/29～5/6、6/6～10、6/26～30	10名（医師4名・看護師3名・心理士3名）

3. 教職員・学生ボランティアの派遣

派遣先	派遣期間	業務	派遣人数
益城町西原村	5/2、28～29、6/25～26	瓦礫等のゴミ処理	学生9名
熊本市	5/3～5/5	瓦礫等のゴミ処理	学生1名
益城町ボランティアセンター	6/5	瓦礫等のゴミ処理	学生1名

4. 支援物資の提供

提供先	提供内容
熊本大学	ご飯（100g）2,200個、カンパン（110g）1,840個、紙コップ2,200個（4/19）
熊本大学病院	患者給食用非常食及び職員用非常食（主菜、おかず、スープ、果物等の缶詰及び飲料水等：4/20）

5. 義援金募集

寄附先	金額	団体
日本赤十字社	2,340,000円	本学全教職員
東海大学農学部	300,000円	本学農学部教職員
都城市役所を通して必要な物資を被災地へ	294,000円	宮崎大学ムスリムコミュニティ（留学生）

6. 被災大学の学生・教職員支援、被災者への支援

- 被災地域大学所属の学生及び教職員に対して、本学附属図書館の施設と資料の利用を可能にした。
- 熊本大学への留学予定学生について、宿舎を確保する等、本学への受入れ体制を整備した。
- 東海大学農学部のミニブタ5頭を一時避難として受入れている。（5/18～）
- 東海大学農学部の本学農学部獣医学科の解剖学実習用の標本の貸し出しを行った。（7/9～8/1）

7. 被災地の動物医療支援（獣医師等の派遣及び動物用医薬品等の物資支援）

- 熊本県獣医師会からの派遣要請により、本学農学部附属動物病院兼任の獣医師を被災地に派遣（臨床系教員延べ15名及び動物看護師1名：4/22～5/15 ※5/15は岩手大学より貸与の移動診療車での活動）
- 熊本県獣医師会に動物用医薬品・獣医療器材の物資支援（滅菌ガーゼ、ピンセット、メツェン、包帯、テープ、針、留置針、犬用ゲージ等：4/23～24）

8. 調査団等の派遣

- 農学部教授1名が砂防学会の調査団の一員として、阿蘇市・南阿蘇村・西原村で地震による土砂災害の調査を行った。（4/23～24）
- 熊本大学運営基盤管理部の応援要請により、本学施設環境部技術職員等を派遣した。被災施設確認・対応のため（技術職員2名）、災害復旧調査補助のため（職員6名）、災害復旧費要求対応（現地調査・資料作成等）のため（技術職員3名）
- 文部科学省及び九州大学から、被災文教施設の応急危険度判定士の登録及び派遣準備の依頼があり、2名を登録した。

9. その他

- サマープログラム（海外在住の外国人留学生を対象に開催する講義や演習等の夏季プログラム）で開講した日本文化の授業において、防災に関する講義を実施（7/12）